

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立新高小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、安全・安心な学びの場としての学校の構築に向け、教育活動の推進・機動性ある組織的対応・保護者や地域、関係諸機関等との緊密な連携・校内環境の整備等に注力してきた。しかし、不登校児童もおり、更に子ども一人一人に目を向け、支援を継続していく必要がある。

Safety Promotion School（以下「SPS」略）認証校として、安全教育とりわけ防災・減災教育を重視して取り組み、成果を上げ、令和5年度再々認証を受けた。今後も家庭・地域・関係機関等が継続して連携して取り組みを進める必要がある。

全国学力・学習状況調査も経年調査において、国語科・算数科ともに、全国平均を超えた。また、大阪市小学校学力経年調査において、全ての学年・教科で大阪市平均を上回った。

一昨年度より、外国語（外国語活動）を研究テーマにし、グローバル化に順応できる児童の育成のために、教員の指導力向上に努め、昨年度教員研究発表会で2年間の実績を報告した。さらに、研究を進め、一人一人の教師力向上が求められる。

本校では、体育合計点については、男女ともに大阪市平均・全国平均を上回っている。ただ、男女ともに、長座体前屈が、大阪市平均・全国平均を下回った。柔軟性に課題があることが分かった。また、20mシャトルランにおいて、昨年同様男女ともに持久力に課題があると考えられる。また、質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」の回答状況は、肯定的な回答をする児童の割合が男子100%、女子87.8%と男女ともに全国平均・大阪市平均を超えている。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合は、男子が大阪市平均・全国平均を下回り、女子が大阪市平均・全国平均を上回った。女子が全体的に運動不足であることが分かった。意識を維持しつつ、筋力・体力等を高めていきたい。

また、本校では、昨年度より働き方改革を進めてきた。今年度も、さらに、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」の実現に向けて、ライフワークバランスを意識し、「ゆとりの日」を遵守し、持ち帰り業務も減らし、児童のために教職員が心身共に健康を意識して業務に取り組んでいきたい。そのため、チームとして教職員一人一人が業務に取り組む意識を高めていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケート（3年以上）の「避難経路図を確認し、その場に先生がいなくても、自分たちで考えて避難することができる。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。

- 令和 7 年度末の児童アンケート「先生や友達と、しっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」「地域の方にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」「お家の人にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」、保護者アンケート「お子様は、地域の方に元気よくあいさつをしていますか?」「お子様は、お家の方に元気あいさつをしていますか?」の項目に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合を、89%以上にする。

「先生や友達としっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」

「地域の方にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」

「お家の人にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、83%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- 令和 7 年度、第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 66%以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 83%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。

（令和6年度 78.4%）

（令和7年度 78.8%）

- 令和7年度末の児童アンケート（3年以上）の「避難経路図を確認し、その場に先生がいなくても、自分たちで考えて避難することができる。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。

（令和6年度 90.2%）

（令和7年度 83.3%）

- 令和7年度末の児童アンケート「先生や友達と、しっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」「地域の方にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」「お家の人にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」、保護者アンケート「お子様は、地域の方に元気よくあいさつをしていますか?」「お子様は、お家の方に元気あいさつをしていますか?」の項目に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合を、89%以上にする。

「先生や友達としっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」

（令和6年度 87.6%）

（令和7年度 84 %）

「地域の方にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」

（令和6年度 87.1%）

（令和7年度 75.1%）

「お家の人にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」

（令和6年度 88.4%）

（令和7年度 87.5%）

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、83%以上にする。

（令和6年度 75.9%）

経年（令和7年度 80.5%）

校内（令和7年度 81.5%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 0.2 ポイント向上させる。
(4 年 101.2→100.4)
(5 年 100.1→99.5)
(6 年 103.2→100.9)
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 0.2 ポイント向上させる。
(4 年 101.7→100.4)
(5 年 100.6→99.8)
(6 年 102.4→100.5)
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。
(令和 6 年度 79.5%)
(令和 7 年度 82.3%)
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。
(令和 6 年度 63.5%)
(令和 7 年度 66.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
(令和 6 年度 77.6%)
(令和 7 年度 78.7%)
- 令和 7 年度、第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 66%以上にする。
(令和 6 年度 81.08%)
(令和 7 年度 84.21%)
- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 83%以上にする。
(令和 6 年度 84.3%)
(令和 7 年度 80.2%)

3 本年度の評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答が 95.5%で昨年度よりも上がったが、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上には至らなかった。今一度いじめについて子どもたちに考えさせる必要がある。

SPS の活動を通じて、児童の防災に対する意識が高いといえる。一昨年度末再認証を受けたこともあり、引き続き取り組みを行っていく。

令和7年度末よりあいさつに関する児童・保護者アンケートは、「相手の目を見て大きな声で」との文言を入れることにより昨年度以上に低い数値が出た。児童には一層あいさつの大切さを指導していく。

令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は、目標の 83%以上ではなかったが、80%を上回った。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合は、86.8%であった。より一層自尊感情を高める指導をしていく必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査における、国語・算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、前年度より 0.2 ポイント向上させることができなかった。学力向上支援事業を活用し、学校全体の指導力は向上しつつあると考えられるが、児童の学力向上には結びついていない。学力向上に結びつく取り組みを行っていく必要がある。

外国語を研究教科にしたこともあり、外国語活動・外国語の力はついてきている。その一方で、学年が上がるにつれて苦手意識をもつ児童も少なくない。「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 82.3%で 83%以上にならなかった要因と考える。より一層意欲的に外国語に取り組めるよう研究を進めていきたい。

令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が 70%に至らなかったが、改善の傾向がみられる。また、令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、体育合計点は、男子が大阪市平均・全国平均を上回り、女子が大阪市平均を上回った。また、1週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の割合は、男子が大阪市平均・全国平均を下回り、女子が大阪市平均・全国平均を上回った。女子が全体的に運動不足であることが分かった。女子を中心に、体を動かす楽しさを授業や学校生活の中で伝えていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

令和7年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上であり、目標に達することができた。家庭へ持ち帰られるのも昨年度に比べて増えた。今後も、情報モラル教育も充実させながら、ICT 教育の推進に努めていく。

令和7年度、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が2月現在84%を超えており、目標を達成している。ただ、仕事を持ち帰る教員も少なくなく、業務の見直しや平準化を進めていく必要がある。

令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、昨年度に比べて肯定的に答える保護者の割合は下がり、目標の 83%に至らなかった。家庭や地域と連携を取りながら、児童の健全な成長につなげていきたい。

大阪市立新高小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(令和7年度 78.8%)</p> <p>○ 令和7年度末の児童アンケート(3年以上)の「避難経路図を確認し、その場に先生がいなくても、自分たちで考えて避難することができる。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(令和7年度 83.3%)</p> <p>○ 令和7年度末の児童アンケート「先生や友達と、しっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」「地域の方にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」「お家の人にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」、保護者アンケート「お子様は、地域の方に元気よくあいさつをしていますか?」「お子様は、お家の方に元気あいさつをしていますか?」の項目に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合を、89%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">「先生や友達としっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」 (令和7年度 84%)</p> <p style="text-align: center;">「地域の方にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」 (令和7年度 75.1%)</p> <p style="text-align: center;">「お家の人にしっかり顔を見て大きな声であいさつをしていますか?」 (令和7年度 87.5%)</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、83%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">経年 (令和7年度 80.5%) 校内 (令和7年度 81.5%)</p>	C
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「いじめ防止基本方針」をもとに、定期的に子どもの実態を教職員全体で共通理解を図り、いじめや不登校の事前予防・早期発見・早期対応を組織的に行う。</p> <p style="text-align: right;">(いじめへの対応)(不登校への対応)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部会を月1回実施する。 ・いじめアンケートを学期に1回実施する。 ・保護者アンケートを年間1回実施する。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会等の場で、関係諸機関（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・区役所・子ども相談センター）との連携が必要と判断した場合、管理職は速やかに、関係諸機関に連絡する。 ・次世代学校支援ソフト「スクールライフノート（心の天気・相談機能）」での子どもの心の可視化に対する支援を実施する。 ・人権教育や道徳教育を通じて、いじめは絶対にいけないということに気付けるような指導をする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>SPSの年間指導計画、「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に沿って、地域・消防署・区役所と連携し、防災・防犯・交通安全に関する授業・取り組みを進める。 (防災・減災教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全学習を年に1時間以上行い、防災に関する授業を各学年一回以上実施する。また、防犯に関する教職員研修、訓練を昨年度同様に具体的に行う。 ・避難訓練（火災、台風、地震、津波等対策）を年5回以上、関係校園、地域・保護者との合同避難訓練を年1回以上実施する。 <p style="text-align: right;">避難訓練（令和7年度 7回） 関係者合同避難訓練（令和7年度 2回）</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>朝会講話や学級指導、地域と家庭との連携を通して、あいさつは、良好な人間関係を構築する上で生涯にわたって必要なものであることを児童に理解させる。 (人権を尊重する教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ強調週間を学期に1回設定する。あいさつへの意識が高まるように、強調週間がある月曜日に講話を行ったり、強調週間後に児童会からの表彰の機会を作ったりする。 	B
<p>取り組み内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>異学年交流活動（縦割り班活動など）を通して、互いを認め合い自尊感情を育む。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童集会、クラブ活動、委員会活動など、異学年での交流の活動を年間を通して月2回以上実施する。たてわり班活動では、教室・運動場・講堂での活動を計画し、他学年交流を幅広く行えるように、内容の充実を図っていく。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導部会を開催したり、各アンケートを実施したりして、取り組みを計画した通りに行うことができた。また、些細なことでも教職員で情報共有を行い、組織的な対応を心がけた。それに加えて今年度は、いじめについてのオンライン研修やスクールロイヤーを招聘しての校内研修などを複数回行い、初期対応の重要性や組織的な対応、被害児童・その保護者への寄り添いの大切さなどを再確認し、校内全体でいじめ問題について理解を深められた。 ○ スクールライフノート（心の天気）を利用する習慣がついてきている。心の天気を確認して様子が気になる児童がいるときは、その都度話を聞いて丁寧に対応することができた。 ○ 指標通りの数値には達していない結果にはなっているが、現在までに重大ないじめ問題は発生しておらず、今後も「いじめは絶対にいけないこと」を学校全体で意識をもって、引き続き指導を続けていく。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度、避難訓練を7回実施することができた。 ○ その際、学級で避難の仕方や避難経路の指導をしっかり行い、令和7年度末の児童アンケート（3年以上）の「避難経路図を確認し、その場に先生がいなくても、自分たちで考え 	

て避難することができる。」の項目について、肯定的に答える児童の割合が 83%以上で目標を達成することができた。

- 幼小合同避難訓練では、幼稚園と密に連携を取り合い、昨年の反省を生かし避難経路や避難の仕方などを決めることができた。

取組内容③

- 児童にあいさつに対する意識が高まるよう、例年通り強調週間を計画し、その後に児童会による表彰式を行うことができた。
- 今年度はこれまでの取り組みに加えて強調週間の初日（月曜日）の朝会時に、児童へ向けてあいさつの大切さについて講話を行った。
- 地域の見守り隊の方から登下校中の児童の様子についての話を聞かせていただくこともでき、講話する内容に活かすことができた。
- 児童のあいさつに対する意識は高まっているように実感としてあるが、指標の数値には届いていない。今年度から取り組み始めたことを来年度も継続して行っていく必要がある。

取組内容④

- これまで児童会で計画してきた異学年交流だけでなく、様々な活動の中で異学年での交流の機会を作ることができた。児童集会だけでなく、委員会活動の中でも異学年交流の機会を増やしたことで、日常の会話の中にも異学年での会話が生まれるようになってきている。
- 小学校学力経年調査・校内調査における、自尊感情についての項目では、指標に達している学年と、そうでない学年がある。
- これからも異学年での交流の範囲を広げる取り組みを続けていく。そして、交流を持つ中で自分の自信につながっていくことにもなるよう、より交流の幅を広げていき、充実した取り組みになるようにしていく。

大阪市立新高小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 0.2 ポイント向上させる。 (4 年 ▲0.8) (5 年 ▲0.6) (6 年 ▲2.3)</p> <p>○ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和 6 年度より 0.2 ポイント向上させる。 (4 年 ▲1.3) (5 年 ▲0.8) (6 年 ▲1.9)</p> <p>○ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。 (令和 7 年度 82.3%)</p> <p>○ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 (令和 7 年度 66.8%)</p>	C
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語 (英語) ・外国語活動を中心として、さらなる授業力・指導力の向上に取り組む。 (言語活動・理数教育の充実)(英語教育の強化)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会を年 3 回。その他、授業公開 30 回。 校内授業研究会 (令和 7 年度 3 回) 公開授業 (令和 7 年度 47 回) ・若手教員の指導力向上を目指した研修を年 8 回程度行う。 (令和 7 年度 10 回) ・英語の全体研修を通して指導力向上を図ることができるよう設定した研修を予定通りに行い、評価方法が適切であるかどうか検証する機会を設ける。 ・算数科を中心とした指導力向上のための公開授業を年 10 回以上行う。 (令和 7 年度 21 回) 	A

<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 基礎的・基本的な学習を確かにするために取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)(英語教育の強化)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年月に数回、年20回程度の漢字の小テストに取り組む。 月平均(令和7年度 5回) 年平均(令和7年度 37回) ・算数科の基礎・基本を習得できるよう、指導方法を工夫する。 ・教育委員会事業、淀川区学力向上支援事業「漢字名人育成計画」を活用し、小学5、6年生を対象に漢字能力検定受検に向けてプリントや一人一台端末での学習を通して、着実な学力向上に努める。 ・全学年の教室にアルファベットのポスターを掲示し、アルファベットに慣れ親しませる。 ・英語に慣れ親しませるための掲示を工夫する。 ・委員会・児童会活動の中に英語を取り入れ、イングリッシュリッチな環境を整える。 ・新高イングリッシュタイムでの短時間学習を全校で一斉に行い、英語学習の意欲を高める。 ・読解力向上を目指し、年間指導計画を基に総合読解力の学習を進める。また、読書活動を推進するための取り組みを行う。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 全体での話し合いや小集団での話し合い、協働的な学習に積極的に取り組んでいく。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の中で「話し合い活動の場」を工夫する。 ・一人一台端末を活用して、学習が深まる話し合い活動の場を工夫する。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。(令和7年度 36.7%) 	B
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】 主として走力・筋力を高める運動や、柔軟力を高め、ケガをしにくい体作りや、身体の調整力を高める意識を養うための取り組みを行う。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上を目指し、教員研修を年に2回以上開催する。 ・体育の授業では、準備体操としてラジオ体操を活用したり、学習内容に合わせた部位のストレッチを行ったりする。 ・各領域の内容に合った動きについて、ポイントを絞って児童に示す。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】 ・校外での体育的活動の場を設け、運動への興味・関心をもたせる。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外での体育的活動の場を年に3回以上設けるとともに、体育的活動が効果的に 行えるよう工夫する。(令和7年度 6回) ・専門の講師を招聘した授業を年に5回以上開催する。 (令和7年度 5回) 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>○ 外国語・外国語活動を中心に据え、4つの指標に基づいて計画通りに取り組みを進めてきた。その結果、外国語・外国語活動の授業改善が進み、基礎的・基本的な学力の定着に向けた指導が着実に進んでいる。また、本校における個別最適な学びや協働的な学び</p>	

の取り組みが、大阪市の総合研究発表会において紹介され、本校の実践が大阪市全体の外国語・外国語活動教育の充実に寄与する成果をあげることができた。

- 研究や研修で得られた成果が一過性のものにならないような仕組みを作る。また、今年度までの研究成果を生かし、次年度の研究につなげることで、学びのつながりをもたせる。

取組内容②

- 外国語・外国語活動や漢字、読解力を主軸に基礎的・基本的な学力向上への取り組みを指標に基づいて計画的に行ってきた。
- 各学年、適切な回数の漢字テストや漢字ノートを使った指導によって漢字の定着を図った。これらの経年の指導の結果、漢字検定においては、大阪市の平均を大きく上回る合格率となった。また、上位の得点による合格者も多かった。
- 外国語・外国語活動においては、3年間に渡る英語環境の整備や研究授業による授業改善を重ねることによって、英語に慣れ親しむ機会が多く確保され、児童の学習意欲の向上につながった。
- 年間計画に基づいた総合読解力の指導や読書活動推進の取り組みを通して、読む力の育成が図られつつある。
- つまずきの見られる児童への個別支援を図ると共に、学年間での縦の系統を意識した指導の共有を進める。

取組内容③

- 各学年、学級において、各教科通して「話し合い活動」を授業に取り入れ、クラス内でのペアやグループによる協働的な学びを進め、深い学びの実現を目指してきた。特に、1人1台端末を活用した話し合い活動充実させるため、校内研修会やメンター研修を実施し、各クラスでの具体的な活用方法を共有してきた。その結果、話し合い活動を取り入れた授業実践は、学校全体に広がりを見せている。一方で、話し合いの深度や参加の仕方には学年、学級の差が見られる状況である。
- 話し合いの目的や視点を明確にした、深い学びにつながる授業作りのための系統的、継続的な体制づくりを進める。

取組内容④

- 準備運動や体づくり運動、水泳の教員研修を計画通り行うことができた。
- けがにつながるよう準備の仕方や運動のポイント指導を行った。
- 跳び箱の学習で病院に行くけがが6件あった。より一層、指導方法の充実、運動が苦手な児童への関わり方を学ぶ必要がある。

取組内容⑤

- 指標通り体育的活動を実施した。
- スポーツテストやかけあし週間などの活動に取り組む際、掲示物や学習カードを工夫することで児童の興味・関心が高まり、積極的に取り組む姿があった。
- 年度目標である「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が70%には達しなかったものの、前年度63.5%から66.8%まで上げることができた。

大阪市立新高小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 (令和6年度 80.8%)</p> <p>○ 令和7年度、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を66%以上にする。 (令和6年度 81.08%)</p> <p>○ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を83%以上にする。 (令和7年度 80.2%)</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けてICT年間活用計画に基づきICT教育を推進する。 (ICTを活用した教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」を日々行う。 ・学習者用端末を用いた、朝の学習や授業での活用を週2回以上行う。(1年生は、2学期以降より) ・情報モラルについて、発達段階に応じて適宜教育し、児童に遵守させる。 ・学習者用端末を、児童に1学期から順次持ち帰らせ、2学期以降毎週持ち帰らせ、自主学習や宿題に活用する。(1年生は、2学期以降より) 	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ワークライフバランスを意識して業務を効率化していく取り組みを一層進めていく。 (働き方改革の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や取組等について、効率的に計画性をもって実施するようにする。また、今年度の実績をICT等に保存し、来年度以降にもつなげられるようにする。 ・SSSやサポーター、支援員等を含めた学年・担当等で情報共有・連携・協力を行い、教職員の業務の平準化を行う。 ・週1回の「ゆとりの日」を遵守するとともに、特段の理由のない場合は、1日の時間外勤務時間を1時間半以内し、教職員自らが心身の健康の維持を図る。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- 「心の天気」をはじめ、授業の中や家庭学習でも ICT を使用した学習が定着してきた。また、日々の連絡帳をクラスルームで上げることで、黒板に常に掲示しておく必要がなく、効率的に活用することができた。
- 「心の天気」においては、有用性が未だに分かりにくい部分が残るのと、児童も「毎日同じやつ」といった感情で入力している児童がいる。
- これに対してこのままでいいのか、入力についての指導が必要なのか、今後研修を通して身につけていきたい。
- 持ち帰るのを忘れた際、充電ができず授業で使用できない場面が何度かあったので、日々持ち帰るよう呼びかけを続けていく。
- ICT 機器の取り扱いで、ルールを徹底して指導していく必要がある。また、学習と必要のないサイト（例えば、アニメやゲーム関係等）を規制できる方法を見つけ、設定する必要がある。
- 情報モラル教育は、今年度 4～6 年生が対象であったため、来年度は全学年で実施したい。学習参観を利用し、保護者参加型の授業を行うことで、より一層の教育効果があると感じる。

取組内容②

- 今年度、「SSS への依頼箱」ができたため、昨年度までと比べて、仕事の依頼がしやすく、業務の軽減に非常につながっている。改めて、SSS への依頼ができる業務内容や依頼の仕方を共有することでさらなる活用につながると考えられる。
- 会議を精選し、工夫を凝らしてきたこともあり、教職員が放課後の時間にゆとりをもつことができている。
- 学年や校務分掌、その他個人で抱えている仕事のバランスを考え、偏りの少ない協働的・組織的な業務の平準化に組んでいきたい。
- 「ゆとりの日」の遵守は、意識はしているが、その日に対応しなければいけないことがあると、守れないことがある。